

京田辺市文化振興計画の
方向性に関する提言

平成 27 年 5 月

京田辺市文化振興懇話会

1 はじめに

京田辺市文化振興懇話会は、様々な分野で文化活動をしている市民を中心として、京田辺市文化振興計画の策定について検討するため設置されました。

現在、平成 27 年度中の計画策定に向けた議論を進めていますが、この提言は、これまでに実施された市民アンケート調査の結果などを踏まえて、計画に掲げるべき施策の方向性を取りまとめたものであり、今後具体的な検討を進めることとしています。

2 文化の範囲

文化とは、学問・芸術などの活動にとどまらず、衣食住をはじめとする広く人間生活全般に至るまで、その範囲は幅広く捉えることができます。

京田辺市文化振興計画の策定にあたって、「文化」の範囲・対象は、「文化芸術振興基本法」に示されているものを基本とするものの、本市の文化を育んできた豊かな歴史や風土といった地域特性を踏まえて、京田辺らしい文化の創造を考えていくことが必要です。

3 基本的な考え方

市民アンケート調査結果等から明らかとなった京田辺市の文化活動の現状と課題に係る 6 つの論点について議論し、今後、市が展開する施策の方向性に関する基本的な考え方を以下のとおり取りまとめました。

(1) 市民が気軽に文化に触れる機会の充実

- 文化の担い手は市民一人ひとりであり、文化振興にあたっては、市民が積極的、自主的な文化芸術活動を行うことができる環境づくりが必要です。
- そのため、子育て世代や高齢者、障害者など誰もが身近に文化芸術に親しむことができる機会を充実するとともに、市民のニーズに応じた多様な文化事業を展開することが望まれます。
- また、次代の担い手である子どもたちへ質の高い文化芸術や、幅広い分野の文化芸術にふれる機会を提供するため、学校教育等における体験機会を充実するほか、子どもの文化芸術活動の成果を発表する機会の充実が重要です。

【懇話会での主な意見】

- ・ 文化関係の行事や活動を、より一層市民に周知していくことが必要である。
- ・ 市として市民に身近に親しんでもらえる機会を積極的にするのであれば、場所の提供や団体への支援も考えていかないといけない。
- ・ 子育て世代にも文化芸術に触れてもらいたい。
- ・ 子どもの発表の場、例えば、絵画や書道などの公募展があればよい。
- ・ 子ども達には可能性があるので、色々なものに触れる機会が必要。その中で自分に合うものを見つけ、伸ばしていくチャンスを提供するのが市の役割。
- ・ 文化にふれる機会を充実していくため、交通アクセスが重要な要素。
- ・ 市民文化祭を活性化させることが大切だと思う。

(2) 文化活動を行う市民や団体に対する支援のあり方

- 文化の振興を図り、次代へ継承していく上で、文化芸術活動を行っている市民や文化団体の果たす役割は大きく、その育成と連携の強化が必要です。
- そのため、個性豊かな文化芸術活動や京田辺市民文化祭をはじめとした文化イベントの開催を支援するとともに、様々な文化団体や施設の連携を実現することが求められます。
- また、本市の知的資源である同志社大学及び同志社女子大学との連携・交流を促進することを通じて、文化団体等の活性化を図ることが重要です。
- さらに、公共施設の利便性の向上を図り、活動場所や発表機会の確保に努めることが望まれます。

【懇話会での主な意見】

- ・ 補助金の拡大よりも、より円滑に便利に文化施設を利用できる仕組みを確立する方が必要である。
- ・ 練習や発表の場所の絶対量が不足しており、使いたくても使えないことがよくある。公平性や平等性に留意しつつも、色々な人が自由に使えるようにする必要がある。
- ・ できるだけ利用料金を低くすることも大切。
- ・ 文化施設利用助成金は市外での活動を促進するという矛盾も生んでおり、できることなら市内の活動を促進する方がよい。
- ・ 文化活動のために貸せる施設を市が示せば、市民の文化活動が活性化すると思う。
- ・ 小学校の体育館等の開放はスポーツ活動で占められており、文化活動が割り込むのは難しい。

(3) 京田辺市の文化施設のあり方

- 文化に親しむ人々の裾野を広げ、京田辺市の文化芸術活動を活性化するため、現代的なニーズに応えられる文化施設と地域における拠点づくりが求められています。
- そのため、質の高い鑑賞空間や多様な文化芸術活動を行うことができる機能、優れた交通利便性を備えた文化施設の整備が望まれています。
- また、新たな文化芸術活動の場として学校施設など教育施設の活用を図るほか、地域における活動拠点づくりを進める必要があります。
- なお、新たな施設整備については、財政状況など考慮して慎重に判断すべきとの指摘があります。

【懇話会での主な意見】

- ・ 中央公民館は高齢者や障害者を意識した設備がないので、建て替えないとしても、改修は必要。
- ・ 今の中央公民館ではアクセスが不便だし、機能も容量も足りない。
- ・ 文化ホールを新設するのが一番だが、土地の問題などがあるので、中央公民館を複合施設に改修するのがいいのでは。
- ・ 文化施設を建てる場合は音楽だけでなく、他の分野も意識した施設とすべき。
- ・ 市民にどういう文化を提供するのかを考え、それが中央公民館で満たせるのか満たせないのかを判断するのが合理的。
- ・ 音楽連盟に加盟する団体の活動の中には「第九コンサート」のように1,000人規模のものもあるので、中央公民館ではキャパ不足。多目的に使用できる300人規模の小ホールと1,000人規模の大ホールの両方が必要。
- ・ 文化ホールを新設するとしても、稼働率の観点から規模は500人が適当では。
- ・ 500人規模と1,000人規模では音の響きが全く違う。学研都市線の沿線であれば集客が見込めるだろう。
- ・ 文化ホールを新設するなら、アクセスは重要で駅の付近が理想。
- ・ 新設は市民の目が厳しいので、稼働率を十分に考えて判断すべき。
- ・ 文化施設のマネジメントに民間の力を借りることも考えると良い。
- ・ ショッピングモールに併設されていたら、子育て世代も気軽に行ける。
- ・ 中央公民館でできないイベントをできるような文化ホールが必要では。本番さながらの練習場所が少ないので需要はある。
- ・ 大規模なイベントはこれまで通り、他市の文化施設を利用するのがベストなので、文化施設利用助成金を拡充すべき。
- ・ 京田辺市の文化団体の活動場所を他市の施設に頼ることで良いのか。将来の子ども達のために夢を語るのであれば、市の前向きな計画を期待したい。
- ・ 稼働率の観点から文化ホールの使用料は低料金に抑えるのがいい。

- ・ 文化ホールの新設は時期尚早ではないか。
- ・ 京田辺市は市民の音楽活動が盛んなので、ホールは必要。
- ・ 文化ホールを建てなくてもコンサートは野外や体育館で行えばいいのでは。
- ・ 専門家から言わせると、野外や体育館はそもそも演奏をする場所ではない。
- ・ 文化ホールの建設費と運営費が市の重荷にならないように、民間の力の活用や商業施設との連携も考える。アクセスや駐車場も大切。
- ・ 財政状況、稼働率の見通しなどを念頭に置いて、慎重に判断すべき。

(4) 文化情報の発信

- 市民が文化に対する関心や理解を深め、鑑賞や活動を行うためには、様々な文化情報を提供していくことが必要です。
- また、本市の豊かな文化を内外に発信することは、まちの品格と魅力を高めることにつながります。
- そのため、文化団体との連携を強化し、各種文化情報を市民に積極的に提供するほか、発信力のある文化イベントや文化財などを多様な情報媒体を活用して効果的にPRすることが求められます。

【懇話会での主な意見】

- ・ ホームページ、フェイスブック、ツイッターは市内の方だけでなく市外の方も見ることができるが、高齢者には伝わりにくいというデメリットがある。
- ・ バス、電車、ラジオの広告を利用するのも効果的。
- ・ 市の情報媒体の利用の仕方を文化団体に周知することが大切。
- ・ ホームページで、毎日どのようなイベントを実施しているか掲載するのが効果的だと思う。
- ・ DMを送付するなど、近隣市町村と連携して告知するのがいいのでは。
- ・ 媒体とコンテンツに区分して、議論すべき。
- ・ 伝統芸能的なものを市外にどんどん発信していくのがいい。
- ・ 文化情報を発信するポータルサイトがあれば良い。
- ・ 産業振興で市外へPRする際に、文化もPRするといいのでは。

(5) 文化活動を担う人材の育成

- 京田辺市の文化を持続的に発展させるためには、より多くの市民が興味や関心を持ち、積極的に参加するよう促すことによって文化芸術活動に関わる層を厚くし、これからの文化振興を担う人材を発掘・育成することが必要です。
- そのため、優れた芸術家や新たな人材の発掘に努めるとともに、伝統文化の後継者の育成や文化施設を活用した人材育成の仕組みづくり、さらには文化ネットワークの中核となって市民と文化芸術をつなぐコーディネーターの育成などが求められます。
- また、子どもたちの可能性を引き出すため、学校、地域など身近な場所で多様な文化芸術活動に参加できる機会の充実や文化団体等との連携が望まれます。

【懇話会での主な意見】

- ・ 文化を担う人材を育成するためには、興味関心を持ち、価値や重要性を認識する人材が多くいることが重要。
- ・ 文化協会では文化活動指導者研修会を実施している。
- ・ 稼働率が高い施設では、管弦楽団や合唱団などのコンテンツで人材育成も踏まえてうまく機能している。
- ・ 京田辺市生涯学習人材バンクの周知と充実を。
- ・ 小学校で実施している演劇や音楽の鑑賞会・発表会に地元で活動する団体を積極的に招いて欲しい。
- ・ 年に1回程度、学校全体で子どもたちの作品展や公募展ができないか。興味が湧いてきて、人材育成にもつながる。
- ・ 中学校で頑張っている先輩の吹奏楽を聴くなども良い。
- ・ 子どもの頃から本物を見せて、芸術に対する目を肥やすことが、人材育成につながる。
- ・ 日常で目に触れ、耳にする経験が大切。
- ・ 小・中学校のクラブで演奏などの体験や発表をすると意欲が出てくる。
- ・ 身近なところで体験をし、そこから広げていくことができないか。
- ・ 子どもの頃から本物を鑑賞し、文化芸術を見る目を肥やすことが大切。
- ・ 子どもには学校の内外で様々な文化芸術（伝統文化や文化財を含む）を鑑賞・体験させることが必要。
- ・ 一人でも多くの子どもに文化芸術に対する興味関心を持たせ、可能性を引き出すことが大人の責任。
- ・ 伝統文化への支援等も考えていかなければならない。

(6) 文化財やお茶文化等の文化資源の活用

- 京田辺市の歴史の中で醸成された伝統文化や文化財は市民の貴重な財産です。
- これらの文化資源に対する保護意識を高め、後世へ伝えていくため、市民や関係機関等と連携して調査・研究を進めるほか、地域の歴史や文化に親しみ学ぶ機会の充実、継承活動に対する支援などが求められます。
- また、文化財等を適切に保存・展示する場を確保するとともに、観光施策との連携など効果的な活用を図り、地域の魅力向上に結びつけることが望まれます。
- さらに、本市は、その茶畑が日本遺産にも選ばれた日本一の玉露の産地であり、子どもの頃からお茶に親しむ取り組みなどを通じて暮らしの中にお茶文化が定着するよう努めながら、玉露の価値を広く伝えていく必要があります。

【懇話会での主な意見】

- ・ 伝統文化は地域住民の心の財産なので、子ども達に継承していかなければならない。
- ・ 先人から引き継がれてきた文化をどのように継承していくかがポイント。
- ・ (文化財は) 研究対象でもある。
- ・ 地元の文化を良く知ることが人材育成の観点からも重要。
- ・ 文化財の保管スペースについて、現在の建物では耐震に不安がある。文化ホールと歴史資料館を一緒に考えていくことは必要。
- ・ 複合施設に文化財を保管できるスペースをつくれば良い。
- ・ 文化財は大切に保管すべきで、壊れてしまったでは済まされない。
- ・ 伝統文化や文化財は有効に観たり体験できたりできる仕組みがないと、ただあるだけでは誰も観には行かない。
- ・ 文化財をとりあえず保管している状態から、活用していく取り組みが必要で、そのためには一定のコスト負担はやむを得ない。
- ・ 地域の大事な資源である伝統文化や文化財を後世に伝えていくためには、展示+αの活用が不可欠。
- ・ 市民が地域の伝統文化に気軽に親しみ、学ぶ機会を実現していくことが重要。
- ・ お茶については、世界文化遺産登録の話もあるので、今本気で対応していく必要がある。
- ・ 市民生活の中にお茶文化が根付いていくことが、玉露のまちをアピールすることにつながる。日常的にいかに親しんでいるかが重要。
- ・ 小学校からお茶に親しみ、つながっていくといい。
- ・ 小さいときからお茶の入れ方などを指導してほしいというニーズはある。
- ・ 文化振興がまずあって、それが結果として観光振興につながる。

参考資料

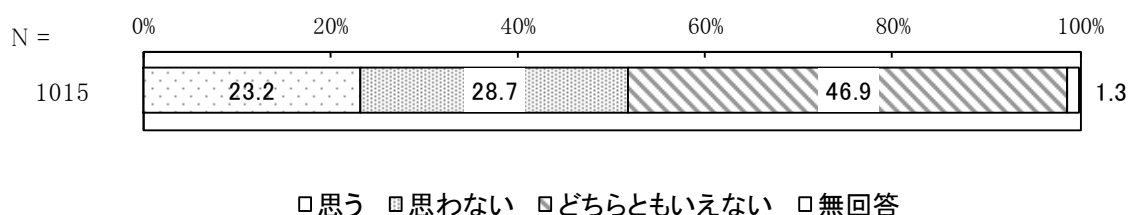
(1) 市民アンケート調査結果

調査対象	満16歳以上の市民2,000人
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成26年8月4日～8月25日
回収結果	有効回収数1,015件（有効回収率50.8%）

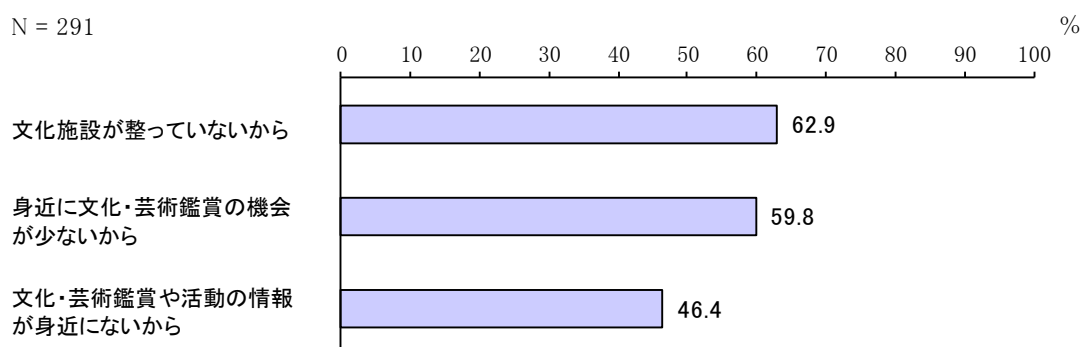
① 京田辺市の文化に対するイメージについて

京田辺市を文化が盛んな街だと「思わない」が約3割となっています。盛んな街だと思わない理由として、「文化施設が整っていないから」が6割以上となっているほか、「身近に文化芸術鑑賞の機会が少ないから」「文化芸術鑑賞や活動の情報が身近にないから」の割合が高くなっています。

■京田辺市は文化活動が盛んな街だと思うか



■盛んな街だと思わない理由（複数回答・上位3項目）



② 市民の文化活動の現状

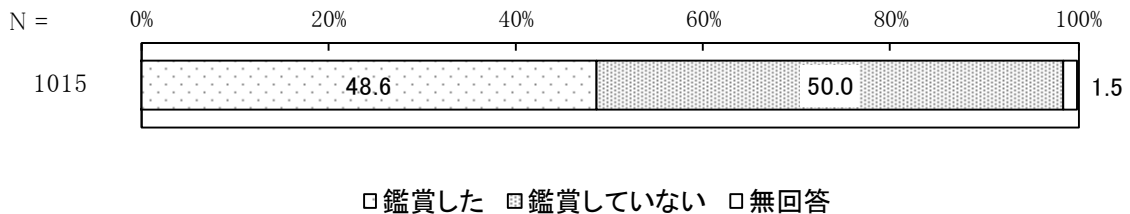
この1年間に文化芸術を鑑賞していない人の割合は5割となっています。

鑑賞していない理由として「仕事や家事が忙しくて時間がない」の割合が最も高く、次いで「身近なところに鑑賞する施設や場所がない」の割合が高くなっています。

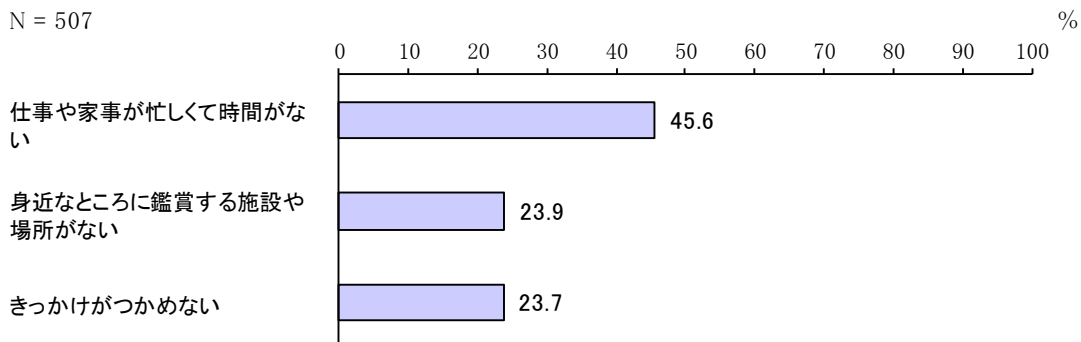
また、自身で文化芸術活動を行っている人は約2割となっています。

どのような情報があればもっと文化・芸術活動や鑑賞ができると思うかについては、「京田辺市内の展覧会や公演などの情報」の割合が約6割と最も高かったほか、「京田辺市外の展覧会や講演会などの情報」「文化施設や文化財の所在地の情報」などが上位となっています。

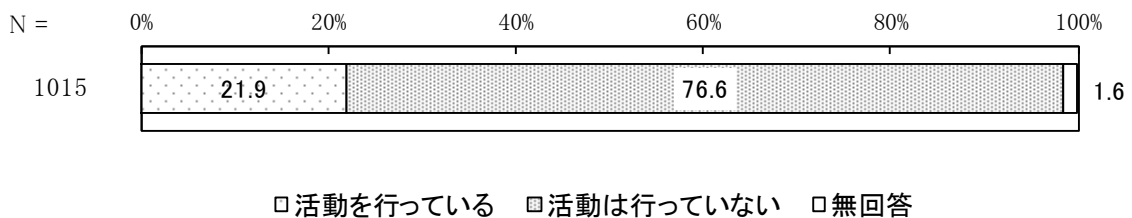
■この1年間で文化・芸術を鑑賞したか



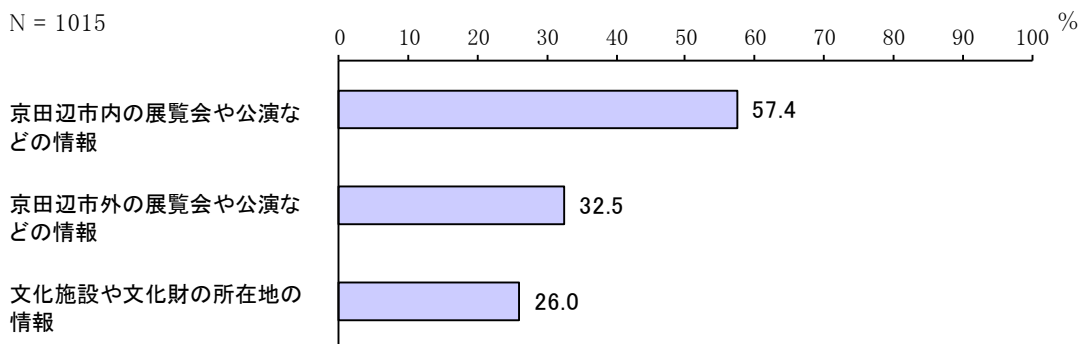
■文化芸術を鑑賞していない理由



■文化・芸術活動を行っているか



■ どのような情報があれば文化・芸術活動や鑑賞ができると思うか

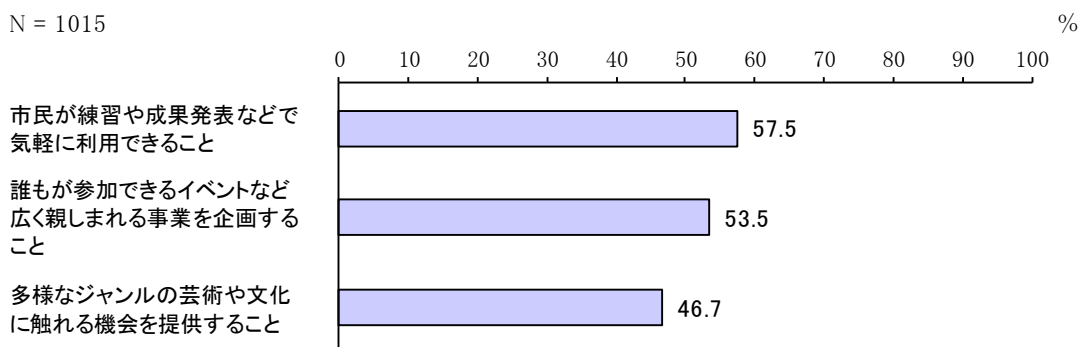


③ 公立文化施設の利用状況と役割

中央公民館や住民センターなどの文化施設の1年間の利用状況については、「利用していない」の割合が約7～8割と最も高く、次いで「年に数回程度」となっています。

また、公立文化施設の役割として「市民が練習や成果発表などで気軽に利用できること」「誰もが参加できるイベントなど広く親しまれる事業を企画すること」の割合が5割以上となっています。

■ 公立文化施設の役割（複数回答・上位3項目）

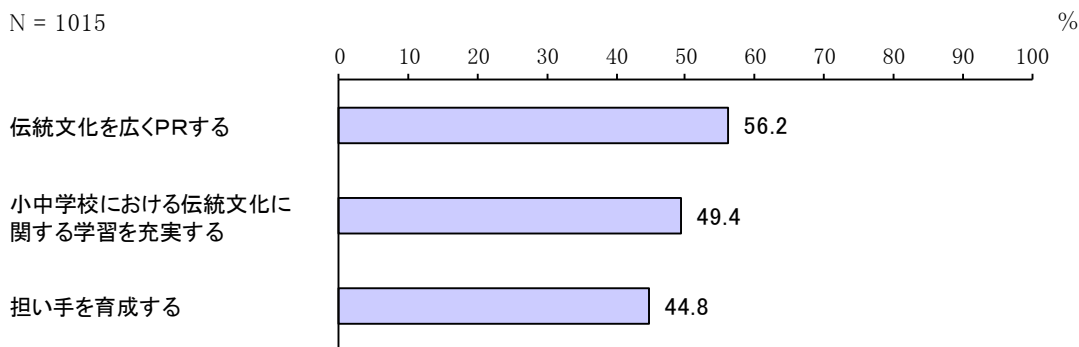


④ 伝統文化・文化財の継承等

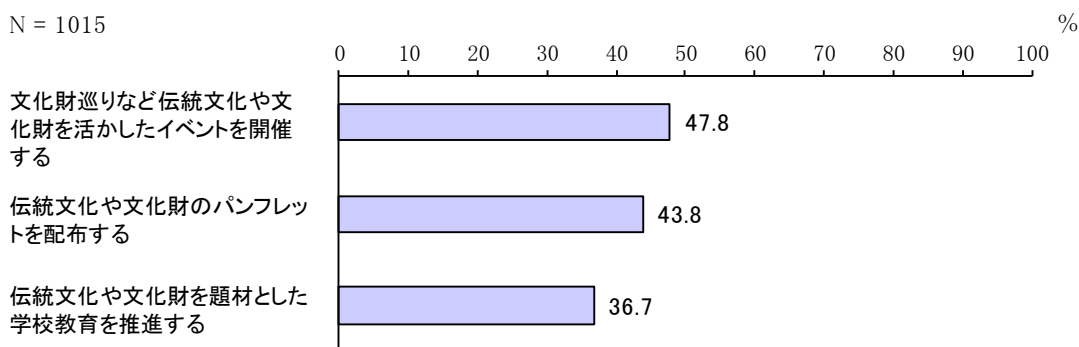
地域の伝統文化を継承していくために必要な取り組みとして、「伝統文化を広くPRする」「小中学校における伝統文化に関する学習を充実する」を挙げる人の割合が高くなっています。

また、市民が興味を持つために必要な取り組みとしては、「文化財巡りなど伝統文化や文化財を活かしたイベントを開催する」「伝統文化や文化財のパンフレットを配布する」「伝統文化や文化財を題材とした学校教育を推進する」が上位となっています。

■ 伝統文化を継承するために必要なこと（複数回答・上位3項目）



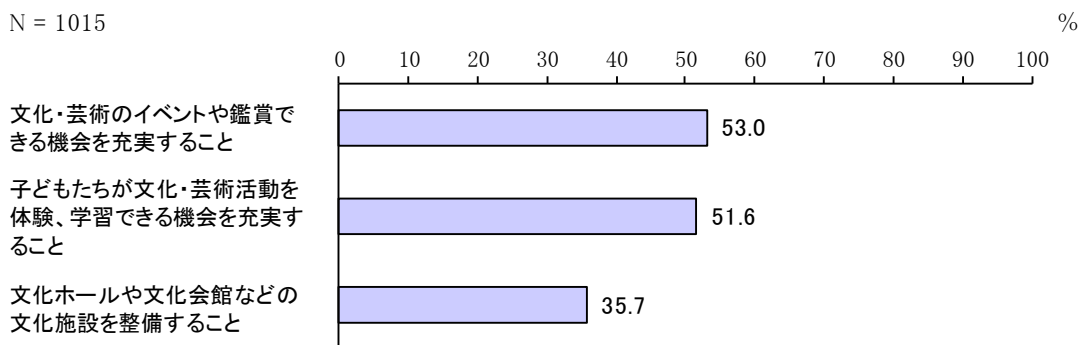
■ 伝統文化等に興味を持つために必要なこと（複数回答・上位3項目）



⑤ 文化・芸術の発展に向けて

京田辺市の文化・芸術を発展させるために重要だと思うこととして「文化・芸術のイベントや鑑賞できる機会を充実すること」「子どもたちが文化・芸術活動を体験、学習できる機会を充実すること」「文化ホールや文化会館などの文化施設を整備すること」を挙げる人の割合が高くなっています。

■ 京田辺市の文化・芸術を発展させるために重要だと思うこと（複数回答・上位3項目）



(2) 団体アンケート・ヒアリング調査結果

調査対象	市内を拠点として文化活動を行う 49 団体
調査方法	郵送による配布・回収
調査期間	平成 26 年 8 月 4 日～8 月 25 日
回収結果	有効回収数 37 件（有効回収率 75.5%） ※15 団体を抽出して別途ヒアリングを実施

【主な意見】

① 活動を行う上での課題

- ・ 広報紙面の容量不足で、参加を呼びかけるイベントが掲載してもらえない月がたびたびある。PR等に苦勞をしている。
- ・ 展示会場や演奏会場、練習会場の確保が難しい。
- ・ 展示会場などがもう少し広ければ、ゆったりとして生かされた作品展示ができると思う。
- ・ 構成員等が高齢化してきている。若い人材がいない。
- ・ 後継者不足。
- ・ 活動するための予算不足（衣装や道具の傷み修理）
- ・ 団員の減少により、個人負担が増加している。

② 文化施設について

- ・ 舞台芸術を披露する事の出来る施設がないのが残念。
- ・ 音楽演奏に適した音響の良いホールが欲しい。余り大きいホールは使用回数が少ないと思うので、400～500名程度の収容人員でよいのではないか。
- ・ 市民音楽祭や第九コンサートが開催できる1千人収容規模のホールと、コンサートが開催できる300人収容規模のホールを早急に建設願いたい。
- ・ 何よりも文化活動の拠点とホールの建設を望む。生涯学習センターとして幅広く市民が利用できる施設も賛成。コンサートだけでなく、広いロビーでの展覧会、資料館などの複合施設になることも更に活性化になると思う。
- ・ ホールがある京田辺市の文化の中心と言える施設が望まれていると思う。
- ・ 文化施設があるに越したことはないが、メリット、デメリットの部分をしっかり検討されなければ多額の費用を費やしてもムダになりかねない。施設を維持していくにも大変な費用が掛かる。
- ・ 他市のような文化センター（の建設）等税負担を増やすやり方は反対する。
- ・ 施設の整備が整っていない。音響等の設備が整った会館等がほしい。
- ・ 中央公民館にエレベーターがなく、階段の昇り降りが大変。荷物等を持ちな

がらの移動が大変である。

- ・ 中央公民館、住民センター、地区公民館の役割・位置付けの見直しを望む。恵まれた施設があるが運用について市民の声を反映してほしい。
- ・ 中央公民館の建替えや文化ホールを併設した文化施設がほしいところであるが、箱物行政の弊害にも配慮し、効率的な施設運営が望まれる。
- ・ 中央公民館の改築望む。音響設備、照明設備等の設備の充実を望む。
- ・ 中央公民館の駐車場が狭い。
- ・ 中央公民館大ホールの舞台・音響設備の改善。
- ・ 小、中学校の音楽施設、講堂等の市民への開放。
- ・ 地域公民館使用料の負担軽減。
- ・ 京田辺市の古い歴史、資料等の大切なものの常設展示。
- ・ 作家による作品常設展示。

③ 文化・芸術の発展に向けて

- ・ 就学前や低学年のうちに本物の芸術に触れさせる機会をつくることが重要だと思う。学校行事に芸術鑑賞を取り入れることができないか。
- ・ もっと若い人たちが楽しく参加できれば、幅広いものになると思う。
- ・ プロ演奏家による定期的演奏会の開催。
- ・ 多くの文化財を生かした観光の取り組み等を通して市の活性化を図っていただきたい。
- ・ 市内には多くの団体があるが、それらが独自に活動している。もっと連携する機会があれば全体的に高まるのではないか。
- ・ 経験豊富な文化人・芸術家たちとのコミュニケーションができる機会を設け、一層の文化芸術の発展に尽力出来る人材の発掘から始める事が必要だと思う。
- ・ 活動団体構成員の高齢化が進んできた。次世代との交流ができるサークル作りが大切だと思う。
- ・ 市内で活動している文化芸術関連団体やサークルに対する積極支援。
- ・ 行政が関与せず丸投げでなく、民間とともに歩む姿勢なくして活力はない。
- ・ 文化協会の強化と教育委員会との協力体制を整える。
- ・ 将来世界に通じる芸術文化の発展につながるような専門家の発掘に努めるとともに、若い人たちに夢をもたせるよう指導されたい。
- ・ 情報の一元化が必要。
- ・ 京田辺市には有数の吹奏楽団があり、熱心な多くの市民がいる。同志社女子大学を巻き込み、市民、大学、小中学校の横断的な活動を行う事により、音楽溢れる街づくりが可能であると考える。
- ・ 無形文化財に対する支援を。

(3) 京田辺市文化振興懇話会委員名簿

氏名	要職等（委嘱時）	備考
真山 達志	同志社大学副学長 政策学部・大学院総合政策科学研究科教授	会長
山本 一宏	同志社女子大学学芸学部音楽学科講師	
潮 義行	京田辺市文化協会会長	
山田 晏子	京田辺音楽家協会会長	副会長
藤本 玲舟	京田辺芸術家協会会長	
澤井 信子	NPO 法人 Office AMATI 代表	
山下 明子	京田辺市観光協会副会長	
淵山 晃年	(株)吉蔵エクスリテイメントソリューションズ 代表取締役	
村中 三千代	京田辺市立田辺東小学校校長	
青木 二三代	京田辺市民生児童委員協議会会長	
西口 兵治	京田辺市市政協力員連絡協議会会長	
長田 吉弘	同志社大学学生	

(4) 検討経過

第1回懇話会（平成26年9月19日）

- ・文化振興計画策定方針について
- ・市民アンケート調査及び団体アンケート・ヒアリング調査について

第2回懇話会（平成26年10月29日）

- ・京田辺市文化振興計画における「文化」の範囲・対象について
- ・アンケート・ヒアリング調査結果の概要と論点整理について
- ・市民が気軽に文化に触れる機会の充実について
- ・文化活動を行う市民や団体に対する支援のあり方について

第3回懇話会（平成26年11月26日）

- ・京田辺市の文化施設のあり方について
- ・文化情報の発信について

第4回懇話会（平成26年12月25日）

- ・中間まとめについて

第5回懇話会（平成27年3月19日）

- ・文化活動を担う人材の育成について
- ・文化財やお茶文化等の文化資源の活用について

第6回懇話会（平成27年5月27日）

- ・京田辺市文化振興計画の方向性に関する提言案について
- ・京田辺市文化振興計画骨子案について